

同和問題

私たちの住んでいる所は 被差別部落というらしい

まいにち
毎日が
たのしいよ

おじいちゃんやお母さん
から時々昔の話を聞く
ことはある

おもしろいことも
おもしろくないことも
普通にあるよ

どうわもんだい
同和問題？
実感は薄いかなあ

でもね・・・

とも
友だちができると・・・
こいびと
恋人ができると・・・

す
住んでるところを言ったほうがいいのか？
しゅっしん がっこう い だいじょうぶ
出身の学校を言っても大丈夫なのか？

けっこん
結婚したいって思ったときに

パートナーはどう思うのか？
かぞく しんせき うけいれ
家族は？親戚は？ 受け入れてくれるのか？

ち いき かえ
地域に帰るとほっとした

こうこう だいがく しゅうしょくさき きんちよう きず
高校や大学、就職先で、緊張したり傷ついたり
きごころの知れた仲間のなかに早く帰りたいと思った

じゅうしょ か きんちよう
住所を書くとき緊張する

てい き けん さくせい い がい じゅうしょ か おお
定期券やポイントカード作成、意外と住所を書くことは多い
め まえ ひと し ひと おも き
目の前の人知らない人でも、どう思われるかが気になった

被差別部落、同和地域の住環境は改善され、まちの様子は変わりました。

直接、まちなかで差別的な表現に出くわすことも少なくなりました。

でも、「住み慣れた地域から一歩出たときに」「人生の節目で」「インターネットの中で」
不安に思ったり傷つく経験はなくなっています。

ここに生まれたことを誇りに思いたい

ここにルーツがあることを大切に思いたい

誰もが同じようにこの思いを持てる社会をつくりましょう。

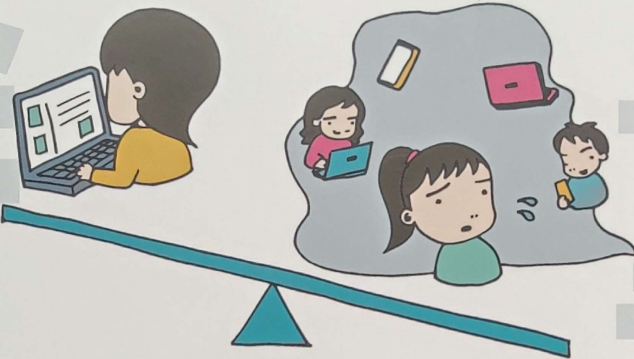
コラム 「差別をなくすこと」と「差別をないことにする」ことは違います

堺市人権意識調査の推移を見ると、差別をなくすには、「そっとしておいた方がよい」「同和地区の人々が分散して住めばよい」と考える人が一定数あり、大きく変化はしていません。しかし、差別される人が見えにくくなったからと言って、差別がなくなるわけではありません。

インターネット上の人権

ネットは気軽に情報発信ができる
相手の顔が見えにくい

▶▶ 一見お手軽



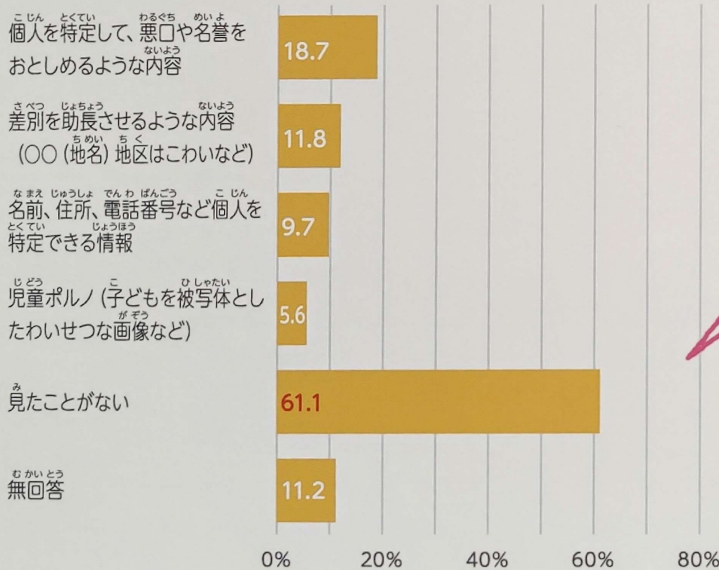
ネットの情報は半永久的に残る
ネット上では噂は尾ひれがついて広がる

▶▶ 重い結果責任

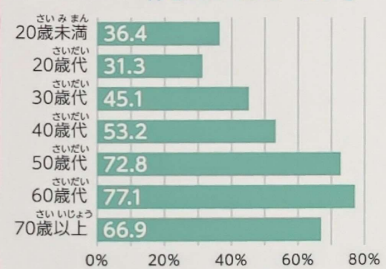
現代では情報の発信や受信は、インターネット上で簡単にできるようになりました。
簡単になったために、相手を尊重する気持ちを忘れてしまう時があります。
顔や気持ちが見えない分、より一層相手を尊重しましょう。

意識調査

インターネット端末で、次のような書き込みや内容を見かけたことはありますか。
(あてはまる番号すべてに○)



年代別集計 「見たことがない」



このグラフから、インターネット上で他人を傷つける表現を見たことがない人がたくさんいることがわかります。しかし、若い世代では「見たことがない」という人は少なくなります。したがって、今後はますます他人を傷つける表現を見る人が増加することが予想されます。

情報発信者の責任

インターネット上でいじめを行う「ネットいじめ」が問題になっています。例えばインターネット上で本人の知られたいことが暴露され、そこに多くの人と同調することなどで、姿が見えない相手からの攻撃は、強い恐怖心や辛い気持ちを抱かせます。ネットいじめの加害者は、間違いなく情報を発信する人です。しかし、その間違っただ情報に同調する人も、加害者になってしまうことを忘れてはいけません。